



6月保健だより

令和8年 八尾市立志紀おおぞらこども園

梅雨の季節になりました。天気や気温の変化が激しいこの時期は、湿度・温度ともに高くなり、熱中症の危険も高くなります。過ごしやすい環境づくりに配慮し、こまめに水分補給を行い、子どもたちの体調の変化に気を配っていききたいと思います



虫刺されについて

虫が多くなる季節になりました。園では電気蚊取り器などで対応していますが、子どもは体温が高く汗をよくかくため蚊に刺されやすいです。虫刺されが心配な場合は、朝おうちを出る前に虫よけ剤を塗って来てください。



基本的に園では虫よけ剤はお預かりしていません。

※虫よけシールや貼るかゆみ止めシールは誤飲の危険性があり、虫よけリングは遊んでいる時に物にひかかり転倒するなど危険ですので付けてこないようにしてください。園で虫に刺された時は、流水で洗い流し保冷剤で冷やしたり市販薬を塗布します。



おねがい

欠席時「すくすくネット」の入力ありがとうございます。

感染症で欠席する時は、①【お休み】を選択、②【感染症】を選択せず【病気】を選択、③【その他】を選択、病名や症状などを入力してください。感染症を選択すると、病名入力出来ず何の感染症なのか分からないため上記の方法で入力をお願いします。

また下痢や嘔吐で欠席する時も同様に【下痢嘔吐】を選択せず【病気】を選択し、いつからどんな症状か詳しく入力してください。

感染症の感染拡大を防ぐためにご協力よろしくお願いします。



保育園症候群（ナーサリースクール症候群）・保育園の洗礼って？

集団保育施設に通い始めた子どもたちが、発熱や風邪症状を繰り返し経験することを「保育園症候群」や「保育園の洗礼」と呼ぶことがあります（医学用語ではない通称です）。主に2歳以下で集団保育デビューした際に多いとされています。どうしてこども園に行った途端に発熱を繰り返すのでしょうか？

今までご家庭で保護者とともに過ごしており、両親や兄弟など限られた家族とのみ接していた環境は、感染症からも守られた環境でした。それが集団保育になることで、はじめての感染症に触れる機会が圧倒的に増えます。大人や2歳以上であれば発症しなくても、免疫がまだまだ不十分な2歳未満児だと新たな感染症をもらうたびに発症してしまいます。保育園症候群はいつまで続くのでしょうか？

こども園デビューから2ヶ月～4ヶ月がピークです。その後9ヶ月も経つとほぼ落ち着きます。毎週のように風邪症状が出ると、うちの子は特別弱いんじゃないか？免疫が心配、と感じるかもしれませんが、でも大丈夫です。保育園症候群はとてもありふれた現象でどんなお子さんでも程度の差こそあれ、必ず通る道です。

お母さんからもらっていた感染症に対する抗体が生後半年から1年で消失してしまうため、1歳以降はそもそも感染機会が多いものです。そんなタイミングでさらにこども園デビューが重なるために急に感染機会が増えたと感じてしまうのです。大変だと思いますがみんなで乗り越えていきましょう！



5月の感染症（5月20日現在）

- 乳児クラス：突発性発疹
アデノウイルス感染症
- 幼児クラス：流行性耳下腺炎
（おたふくかぜ）
水痘（みずぼうそう）
溶連菌感染症

急に暑くなってきました。熱中症は体が暑さに慣れていないときに多く発生します。寝ている間に汗や呼吸によって水分が身体から失われます。朝ごはんをしっかり食べ、また水分もしっかりとって、元気に登園してきてくださいね！